

企画事業 「次代を担うリーダーの育成事業」

事業名	青少年教育施設ボランティアセミナー とかしきボランティアスクール
実施期間	平成22年4月23日(金)～25日(日)
担当者	企画指導専門職 大城 辰秀



I 事業の趣旨

少子化や核家族化などによる社会構造の変化や目まぐるしく変化する情報化社会の中で、青少年にとって自己の在り方や生き方を考え、主体的に物事に関わる能力や態度の育成は大きな課題となっている。このような社会においてボランティア活動は、自己肯定感を高め、他者を理解し、思いやりの心や豊かな人間性、社会性を養う活動として重要である。

現代社会においてボランティアを希望するものは年々増加しているが、ボランティアを養成するシステムは十分とはいえない状況にあり、本施設がその養成を行う意義は大きいと考える。そこで、「法人ボランティア育成カリキュラム」を基に当施設の特徴である海洋研修プログラムも取り入れながら渡嘉敷島の自然の中で主体的な活動の場を提供し、体験を通じた学びを支援した。

II 事業の概要

1 事業の目的

これからボランティア活動を始め方を対象にボランティア活動に関する理解を深める場として、当施設の法人ボランティアに必要な基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。

2 参加対象及び募集人員

高校生以上 30名

3 参加状況

男性17名、女性17名 計34名

大学生(県内)・・・34人

4 実施上の留意事項

(1) 運営について

「法人ボランティア育成カリキュラム」を基に当施設のボランティアとして必要な野外活動を体験してもらい、基礎的な知識や技能を身につけた。

また、過年度の経験豊富なボランティアの皆さんに活動の場を与え、前面に出すことで当施設でのボランティア活動のようすが見えるようにした。

(1) 健康管理について

4月後半とはいえ、昼夜の気温差があり体調を崩しやすい。朝のつどいや活動中の健康管理や体調チ

ェックを職員とボランティアとで行った。

(2) 安全管理について

野外活動では、活動前にオリエンテーションを行うと共に職員やボランティアで役割分担し活動を見守った。

5 活動のようす

1日目



《アイスプレイングで緊張ほぐし》

施設ボランティアが中心となってアイスプレイングを実施した。



《講義：青少年教育について学ぶ》

青少年教育の課題や子どもの発達段階に応じた体験活動の必要性を理解した。



《施設ボランティアによる説明》
野外炊飯のオリエンテーションを実施した。



《レクリエーションスキルを学ぶ》
講師による指導のもと、アイスブレイキングやレクリエーションのスキルを学んだ。



《みんなで作ったカレーをいただきます！》



《レクリエーションスキルを学ぶ》
レクリエーションを通してコミュニケーションを図る。

2日目



《命を守る 心肺蘇生法を学ぶ》
万が一の事態に備え、命を守るための救命救急法を学び、安全に対する意識を高め、必要な知識・技能を身につけました。



《キャンプファイヤー運営を体験する》
1日目にキャンプファイヤーのプログラムづくりを行い、2日目の夜に実践した。



《グループワーク：ボランティア活動の意義》

ボランティア活動に対する考えを交流することにより、各自が考えを深め、より良い活動を行うための意識を高めた。



《グループワーク：ボランティア活動の意義》

ボランティア活動に対する考えを発表する。

3日目

《海洋研修体験》

当施設の特徴である海洋研修プログラムを取り入れ渡嘉敷島の自然を満喫すると共に、参加者間のコミュニケーションを図りながら、主体的な活動の場を提供した。



《大型カヌー》



《スーパーフロート》

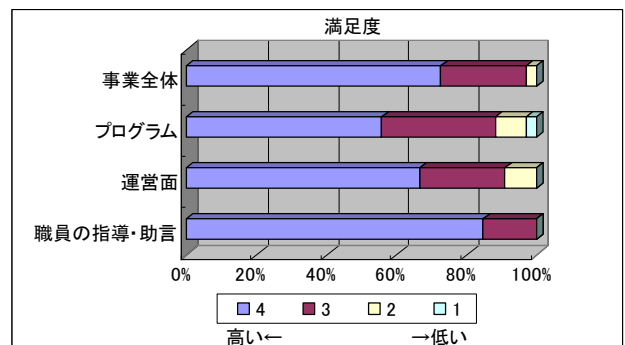


《オープンカヤック》

6 アンケート結果

アンケートの結果から、「満足」「おおむね満足」を含めると全て90%以上の満足度となった。参加者の自由記述から、職員の指導や法人ボランティアの関わり方などが、これからボランティアを始めようとする者にとって示唆を与える内容だったようである。

プログラムについては、天候の関係で実技・自習が内容変更となり、座学的な内容になったことが不満要因に挙げられる。



(1) 参加者の声

《良かった点》

【事業全体】

- 様々な体験ができた。日頃出来ないことをたくさん学べたし考える機会になった。
- 楽しかったし分かりやすくなった。来て良かったと思えた。
- 人との出会いが新鮮でよかった。幅広い分野の人が集まっていてとてもおもしろかった。

【プログラム】

- 様々な内容が組み込まれていて充実していた。1つ1つの講義の意味や理由が明快であり、自分が期待した以上の成果を感じた。3日間みっちりだったが有意義な体験だった。

【運営面】

- 職員もボランティアもとても生き生きとやっていた。テキパキしていてすごく見本となり、目標となった。
- 段取りが良かった。スケジュールに概ね無理がなく、進行もスムーズで気持ちよく過ごせた。

【職員・ボランティアの指導助言】

- 職員は、私達のこと考えながら分かりやすく助言してくれた。
- 親切で適切だった。優しく丁寧にきちんと指導してもらいました。
- ボランティアは、同じ大学生だけど責任をしっかりとってテキパキと行動しておりすごいと思った。年の差はそれほどないのに自分や周りのみんなを引っ張っていく頼もしさを強く感じた。行動力、リーダーシップに優れていた。
- 自分も島ボラ（法人ボランティア）のようにしっかりしたいと思った。自分がボランティアをする時のお手本にしたい。
- 基本的には優しさを感じるが、行動の後の片付けのチェックでの厳しさを兼ね備えている。島ボラの人に注意されて同級生なのに偉いと思った。その場その場で気持ちの切り替えをされていて、カッコよかった。

《改善すべき点》

【事業全体】

- 昼食後の何もしない時間など短縮できたのではと思う点がいくつかあった。

【プログラム】

- 実技より座学が多かったのもっと実践を学びたかった。
- 詰め込まれていたように感じたので疲れた。少しハードだった。

【運営面】

- 日程表で勘違いすることがあったので、次の行動の時間と場所を言って欲しかった。キャンプファイヤーの時の連絡が回ってこなくて少し困った。
- 時間配分が間違っているかなと思うところもあった。時間が余ったり、足りなかったりするところがあった。

【職員・ボランティアの指導助言】

- 島ボラと交流する機会が少なく、ちょっと残念だった。忙しかったと思うが、もうちょっと交流したかった。

【気づいた点】

- こんな体験ができるのに知らない人が多い。琉大生が多く他大学生が少なかったのもっともっと多くの人にこの事業のことが広まればいいと感じた。

Ⅲ 成果と課題

1 事業の成果

- 運営のポイントとして過年度の活動経験の多い法人ボランティア4名を運営スタッフに加え、事業の進め方や参加者への働きかけなど、活動の場を与え前面に出すことで当施設でのボランティア活動のようすが見えるようにした。これが参加者の見本となり参加者の学びが深まった。
- 地元大学との連携による事業で、定員以上の申込があった。多くの学部から幅広い分野の人が参加したことで参加者同士の情報交換の場となり、ネットワークの輪を広げることができた。
- 参加者が日頃体験できない野外活動体験プログラムを組むことで、野外活動への興味・関心を持たせることができた。それが、参加者全員の法人ボランティア登録につながったと考える。

2 今後の課題

- 当施設は、離島に位置し宿泊を余儀なくされることもあり、登録後気軽にボランティア活動ができる環境とは言い難い。複数回の活動後、ボランティア活動に興味を持った方が継続し、登録者の多くが1回きりか、登録のみになっていることが現状である。次代を担うリーダー育成事業の観点から、多くの青少年にボランティア活動の魅力を伝えると共に青少年向けの体験活動事業への参加機会を増やす必要がある。そのためにも、県立青少年施設や学校等と有機的な連携を図る必要がある。

Ⅳ おわりに

- 当事業は、法人ボランティアがその後の企画事業等に参加することでスキルアップの機会になるよう年度スタートの事業に位置づけた。今年度は、レクリエーション運営のプログラムを組み、アイスブレイキングやレクリエーションスキルを学んだ。その後の企画事業等でアイスブレイキングなどの一部のプログラムを担当させ、スキルの向上を図ると共に活動の成就感を味わうことを目標とした。当施設がより多くの青少年のボランティア活動のキッカケになることを願う。